



令和7年度
6月号

★教育目標 郷土を愛し、未来を築く人間の育成
・健康な生徒(体) ・創造する生徒(知) ・実行する生徒(意) ・感動する生徒(徳・情)

★重点教育目標 「互いに認め合い、学び合う生徒」の育成

二海郡八雲町東雲町 31 番地1

E-mail: yakumo-jh@town.yakumo.hokkaido.jp

「渡島中体連物語」 ～ 時代は変わっても、躍動する中体連！！～

八雲町立八雲中学校長 増田 正弘

先日の壮行式において、生徒の皆さん、特に3年生に激励の言葉を贈りました。中学生生活最後の大会に挑む姿は、指導者としても胸が熱くなる瞬間の連続です。勝敗だけでは計れない、これまでの努力や成長、仲間との歩み、そのすべてが詰まったかけがえのない舞台です。



私自身、45年前の中体連の記憶を断片的ながら今も覚えています。それほど印象的で、胸が熱くなる場面が多くあったのだと思います。だからこそ、生徒の皆さんにも記憶に残るプレーをしてほしいと、そんな願いを込めて話しました。

平成3年(1991年)当時は、生徒数も多く、各校が単独チームで出場していました。それぞれの学校に根差したカラーが色濃く表れ、応援も熱気に満ちていました。対戦には、「この中学校とこの中学校の戦いだ」と感じさせるような、張りつめた緊張感と互いの誇りがぶつかり合う熱さがありました。その時の空気は今でもはっきりと記憶に残っています。私も教員生活の中で、女子バレー、女子バスケ、野球、バドミントン、ソフトテニスの5つの部活動を主顧問として指導しました。SNSなどない時代、ルールはルールブックや生徒から学ぶしかありませんでした。学校に訪れたVHS販売業者のビデオ(練習方法等の解説内容)は高価で、購入はできず、その場で見るだけでした。素人の私は生徒が望むような指導ができず、苦労の連続でした。それでも全国、全道の舞台に立たせてくれたのは、まぎれもなく生徒たちの努力と、それを支えてくださった保護者や少年団の指導者の皆様、連盟・協会の皆様のおかげでした。



今、少子化の波を受けて中体連の姿も大きく変わりました。合同チームや拠点校、クラブチームの参加など、新しい形が当たり前になりつつあります。学校ごとのカラーが薄れる寂しさも感じますが、それでもなお、生徒たちが全力で挑み、仲間と共に流す汗や涙の尊さは今も変わりません。

今年の中体連でも、八雲中学校の生徒と先生方が見事に躍動しました。この経験が皆さんの心に長く刻まれることを願っています。時代が移り変わっても、中体連は生徒の成長の舞台であり続けるその願いを込めて、心から感謝と敬意を表します。